

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	12-081	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Foetal and neonatal outcomes in women reporting ingestion of low or very low alcohol intake during pregnancy. 妊娠期の少量・極少量の飲酒を報告した女性における胎児・新生児の転帰		
執筆者		
Han JY, Choi JS, Ahn HK, Kim MH, Chung JH, Ryu HM, Kim MY, Yang JH, Nava-Ocampo AA.		
掲載誌		
J Matern Fetal Neonatal Med. 2012 Nov;25(11):2186-9.		
キーワード		
胎児、新生児、妊娠期、飲酒		
要 旨		
背景： これまでに、妊娠中の少量から中等量の飲酒が流産のリスク、死産、胎児成長障害、早産、胎児奇形を増大させる、妊娠中の中等量の飲酒が低出生体重と有意に関連する、などの報告がある。		
目的： 妊娠期に少量あるいは極少量の社交の場での飲酒を報告した女性の妊娠の転帰を評価することである。		
方法： 少量あるいは極少量の飲酒を報告した1,667名の妊婦(ケース)と禁酒した1,840名の妊婦(コントロール)の前向きコホートにおいて、産科および胎児の転帰が評価された。		
結果： ケースでは、妊娠初めの4.4(中央値)週間において飲酒があり、中央値が1.0(0.01~6.0)回/週の飲酒で、7.6g(0.09~47.5g)/週であった。喫煙は、ケース群でコントロール群よりもちょうど4倍多く報告された($p < 0.001$)。妊娠の転帰はグループ間で同様の結果であった。奇形児はケース群では37名(2.4%)、コントロール群では41名(2.4%)であった($P = 0.9$)。		
結論： 妊娠中の少量あるいは極少量の飲酒は、妊娠あるいは胎児への悪影響とは明らかに関連してはいなかった。		